

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議

第59号

平成30年8月 2日

皆様には、福島県青少年育成県民会議の事業に対しまして、日頃より、温かい御支援や御協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。

青少年を取り巻く社会環境の大きな変化に伴い、社会生活を営む上で困難を抱える青少年や子どもの貧困対策など、青少年をめぐる様々な課題が浮き彫りになっております。こうした中、次代を青少年が心身ともに健康で社会に参画できるよう、家庭・学校・地域において、大人が青少年の生活や考え方に理解を深め、自立を支える取り組みが必要であります。

当県民会議は、各市町村民会議、関係機関・団体、企業、NPOの皆様との緊密な連携のもとに、青少年健全育成のために諸活動を展開してまいりますので、皆様の御理解、御支援、御協力をお願いいたします。

平成30年度福島県青少年育成県民会議について

今年度の県民会議の組織、重点推進事項、事業概要は以下のとおりです。

《組織》

- ◆ 役員 ・会長：内堀雅雄福島県知事 ・副会長：2名
 - ・理事：11名（鈴木登三雄常勤理事は福島県青少年会館館長と兼務）
 - ・監事：2名
- ◆ 議員 ・関係行政機関、学識経験者、青少年育成団体、青少年団体、報道機関（今年度は134の個人・団体）

《重点推進事項》

- 1 「大人が変われば、子どもも変わる県民運動」の推進
- 2 「地域の子どもは、地域で見守り育てる運動」の推進
- 3 青少年関係機関・団体との連携の強化
- 4 青少年を取り巻く有害環境対策の推進
- 5 社会生活等において、さまざまな困難を有する子ども・若者への支援

《事業の概要》

- 1 ふくしま青少年育成セミナー
- 2 「家庭の日」作品コンクール
- 3 福島県青少年育成県民会議会長表彰
- 4 第40回少年の主張福島県大会
- 5 第41回福島県青少年健全育成推進大会
- 6 「大人への応援講座」の開設支援
- 7 「福島県青少年総合相談センター」「福島県ひきこもり支援センター」の運営
- 8 関係機関との連携の強化と広報活動の推進



平成29年度「家庭の日」

1・2年生絵画部門最優秀賞

「また、つれていってね」

会津若松市立湊小学校

渡部 希空さん

【連絡・お問い合わせ先】

住所 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5（福島県青少年会館内）

TEL 024-546-0002 FAX 024-546-8311

mail f-youth@io.ocn.ne.jp

HPアドレス <http://www.fukushima-youth.com/>



常勤理事からのメッセージ

感涙のハーモニーと「合唱王国」

福島県青少年育成県民会議 常勤理事 鈴木 登三雄

音楽には力がある。ときに、聴く人の心を揺さぶり、気持ちを昂ぶらせ、高揚感や元気を与えてくれる。あるいは、聴く人の心に安らぎをもたらし、その魂を鎮め慰めてくれる。

そのような思いを改めて強く感じる場面が、今年3月11日の東日本大震災追悼復興祈念式であった。

震災から7年となるこの日の式典では、閉式前の最後のプログラムとして、県立会津高校合唱部による献唱が行われた。式典自体が厳かに執り行われていたため、ステージに登場した合唱部員たちの表情には緊張の趣が見て取れたが、演奏が始まると部員らは素晴らしいハーモニーを披露し、予定された2曲を見事に歌い上げた。

特に、最初の曲「アメージンググレース」では、各声部が清冽なまとまりをもって、澄み切った敬虔な音の響きを生み出していた。

会場となった「とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）」は多目的ホールであるため、残響時間はけっして長くない。それでも、部員らが「アメージンググレース」を歌い終えた後、奏でられた響きが会場の隅々に染み渡るように、長く漂い残っているように感じられたのである。

彼らに対する拍手は、演奏後しばらく間を置いてからまばらに起きた。それが静かに会場全体に広がっていった時、頬を伝わるものに気づいた。慌てて手でそれをぬぐったが、隣席の女性もハンカチを目に当てていた。前席の方に目をやると、同様な光景が幾つか見受けられ、後方からは濡れ落ちるものをすすするような音も聞こえてきた。まさに、聴く人の心を打つ演奏であり、感涙のハーモニーであった。

ところで、福島県が合唱王国と呼ばれるようになってから久しい。王国の呼称を維持してきたのは、主に高校の合唱団の活躍によるところが大きい。会津高校合唱部も、全日本合唱コンクール全国大会で7年連続11回の金賞を獲得するなど、王国を牽引する存在となっている。

こうした本県高校合唱団の活躍を長い時間幅で見ると、特筆すべきは、すぐれた実績をあげる高校が、特定の地域の限られた学校ではなく、浜・中・会津の県内全域にわたって多く出ているということである。すなわち、本県の高合唱界は、限定された点のみが輝いているのではなく、面として、銀河のような輝きを長く保ってきているのである。

ではなぜ、本県が合唱王国となり得ているのか。その答えとして、すぐれた熱心な指導者の存在、高いレベルでの競争関係の成り立ちなどがあげられよう。しかし、これらの答えだけでは、長年にわたる王国の保持は説明しきれないだろう。演奏する側の生徒たちにも共通するような、何かの答えがあるはずなのである。

「合唱は心で繋がらないと美しいハーモニーにはならない。」これは、合唱関係者の間でよく言われていることである。とすれば、「心で繋がること」を尊び、そこから生み出される「美しいハーモニー」を喜びとする精神的な土壌が、合唱王国の礎となっているとは考えられないだろうか。

また、この土壌は、県民性や県民のアイデンティティにも通じるものであり、福島県民の底力とも言えるものではないだろうか。そんな思いを抱くほどに、会津高校合唱部の演奏は、部員とともに会場の式典参加者が心で繋がる「美しいハーモニー」だった。



「あなたは、今、幸せですか？」

6月23日（土）今年度の「第1回青少年育成セミナー」が、青少年会館大研修室で、文教大学 人間科学部臨床心理学科教授 布柴靖枝様から「シアワセを獲得できる子どもを育てるために—家族関係・親子関係—」と題して御講演をいただきました。以下は、その概要です。



1 幸せの形

- (1) 幸せの形はいろいろあり、親子であっても幸せの形は違う。
- (2) 国際化・IT化社会の中で、世の中どう動くか分からない中、価値観の多様化により、幸せの形も多様化している。
- (3) 今の子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業についている。
- (4) 今後、10～20年で約47%の仕事が自動化され、今までの教育をしていたら、失業者をどんどん出してしまう。
- (5) 高度経済成長期に、父親が子どもたちから奪われた。

2 家族のあり方

- (1) 育児不安が増えている。
昔は、子どもの数が多くて、子育ては40代で終わっていた。
若いお母さんが不安を抱えている。母性がないのではなく、社会が変えている。
- (2) 父親に育児参加してもらわないと、母親はやっていけない。
父親がどのように妻や子どもに接しているのか分からない。よく言えば、生き方が多様化している。

3 幸せ（主体的）に生きるための条件（生き方の自己決定）

自分で自分の人生を選ぶ、自己決定ができることで幸せを感じることができる。次のことを行っている人は幸せな人である。

- ① 失敗した自分も受け入れられる（気づき・受容）
- ② 自分を表現できる（表現）方法（スキル）をもっている
- ③ 自分らしい生き方ができる（選択・行動力）
- ④ 一歩踏み出すことができる

4 健康な家族

- (1) 家族の中で、全員に目配せできる人がいること。（それが母親であることが望ましい）
- (2) 親の自己肯定感が高いこと。
レジリエンス（回復力）が高い。
- (3) 夫婦間（家族間）の葛藤に巻き込まないこと（父親が子育てに参加している。）
不登校、ひきこもり、摂食障害の子どもは、父母の仲が悪く、自己肯定感が低い。
「自分が悪いことをしているから、親の仲が悪い」
「自分がたたかれるより、母がたたかれるのが辛い。」

5 ダブルバインド

子どもはいるが、母親は離婚している。花子がけんかしてきた。

- ・花子、抱っこしてあげるから「いらっしゃい」
- ・お母さん、怖い。
- ・花子、抱っこしてあげるよ。
- ・母親、怖い顔をして無視をする。

このことが「ダブルバインド（二重拘束）」と言われる状況である。

母親が子どもに対し「花子、抱っこしてあげるよ」と言葉では肯定的なメッセージを送っているにもかかわらず、花子が母親に近寄ると、表情や態度では矛盾する否定的なメッセージを送っている。

母親は言語（言葉）では「いらっしゃい」と、一方では非言語（表情・態度）では「来るな」と、メッセージを送っている。

※ 「勝手にしなさい」は究極のダブルバインド

6 悩みは成長へのチャンス

- (1) 苦しみ・悩みを受容するためには？
話すこと 「相談にきたこと」解決したと言える。
放つこと 「言語化すること」で解決したといえる。
- (2) 怒り・悲しみ・嫉妬心のある人は健康である。
- (3) 話してくれたことで悩みを乗り越えている。
「よく話してくれたね」「それは辛かったですね（共感）」「話せることが、もう自分を乗り越えている証拠ですよ」「これからは、一緒に考えて生きましょう」



7 無条件の愛情（思い通りにならない相手の存在を受容すること）

- (1) 無条件の愛情には、恐れがない。不安がない。
- (2) 相手の責任まで取ってしまうのではなく、相手には相手の責任がある。
- (3) 相手を変えようとしな。それでも関心はあるし、愛のエネルギーは向いている。

※ 最も悪い関わり

「文句を言ったりや非難したりしながら、尻ぬぐいをする事」

最終的には、本人に自己決定させる。

《最後に》

子育てに完璧はない。もし、足りないところがあったとしたら、気づいた時から始めればいい。

思春期に起こる子どもの心理的問題は、親子関係を改善できる絶好の機会である。



（以上）

ひとりで悩んでいませんか？

【福島県青少年総合相談センター】

福島県青少年総合相談センターは、子ども・若者の問題について、幅広く相談を受けている総合相談窓口です。一人で悩みを抱え込まずに、お気軽にご相談ください。

秘密は厳守いたします。相談は無料です。

相談方法：電話、面談（要予約）、メール

住所 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋 53 番地 5 号（福島県青少年会館内）

TEL/FAX 024-546-0006

E-mail soudan-fukushima@gaea.ocn.ne.jp

【発達についての専門相談】は、毎月第3土曜日に実施しており、豊富な経験を持った専門相談員が丁寧に相談に応じています。ご予約は青少年総合相談センターへ。

【福島県ひきこもり支援センター】

青少年総合相談センターには、「福島県ひきこもり支援センター」が併設されており、ひきこもりの相談に対しては、専門のスタッフが対応しています。相談方法等は、青少年総合相談センターと同じです。

